

○○○君、君は最愛のご家族や知人、知己に見送られて幽暗の地に旅立たれました。私は今、深い悲しみといいようの寂しさを覚えています。本当に君が逝ってしまったなんて、いまだもって信じがたいことです。君はそれほど、わが社にとってかけがえのない有能な存在であったのです。

君は昭和○年に優秀な成績をもって○○大学経済学部を卒業され、わが社に入社されました。期待にたがわず、君は担当部署だけでなく全社的に将来を愉しめる人材であることを示し始めました。会社では君の急逝は惜しんでもなお余りあるものであります。

○○○君：：、君は大学在学中よりスポーツを好み、ラクビー部の主将として、各支店選抜の選手団と親善試合を戦わして人気を集めるほか、ゴルフ、旅行、音楽と趣味も幅広く、若手社員のおこがれとなっておられました。それもいまでは、楽しくも悲しい思い出となつてしまいました。

直属の課長として君と接した時間は、ほんの○○年ほどにすぎませんでした。これほどつらく悲しいことはありません。それにましても君を慈しみ育てられ、君の将来を樂しみとされておられたご両親のご心痛を推察申し上げるとき、どのようにお慰めしてよいやら、ことばもありません。君もまた、大切なご両親を残して先立つことをどんなにか悔しく、心のこりだったことでしょう。

○○○君、どうぞ安らかにと、ただただご冥福を祈るばかりです。

平成○年○月○日

○○○○ 株式会社

○○○○